

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

平成 28 年第 46 週 (11/14~11/20) 【詳細版】

平成 28(2016)年 11 月 25 日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント(概要版より再掲)

- (1) インフルエンザは、流行期入りしました(本紙詳細版に特集追加)。
- (2) 報告数が多かった疾患は、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とインフルエンザです。
- (3) 感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、過去 5 年の同時期と比べて多く報告されています。
- (4) 梅毒は感染症法による調査開始後、最も高い値で推移しています(本紙詳細版に特集追加)。

2. 定点把握疾患(五類感染症)の定点当たり報告数 ^{i, ii, iii, iv}

定点区分 (定点数)	疾病名	保健所別 (iv)											全国 (iv)	基準値				
		2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根		長浜	高島	警報 開始	警報 終息	注意報
インフルエンザ (定点数:53)	インフルエンザ	0.58	0.62	1.13		○	○	1.73	0.40	0.86	0.25	0.43	1.00	6.33	1.38	30	10	10
	RSウイルス感染症	0.75	0.94	0.88				0.43	1.00	1.00	2.40	0.50	0.25	0	1.11	—	—	—
	咽頭結膜熱	0.19	0.13	0.06				0	0.17	0.25	0	0	0	0	0.31	3	1	—
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.81	0.59	1.53		○		1.57	2.33	1.75	2.60	0	0.25	1.50	2.22	8	4	—
	感染性胃腸炎	4.81	6.16	8.28		○		12.43	9.50	3.25	7.60	4.75	10.75	4.00	13.12	20	12	—
	水痘	0.41	0.34	0.44				0.29	0.50	0.50	0.40	1.25	0	0	0.51	7	4	4
小児科 (定点数:32)	手足口病	1.03	0.72	0.78				1.29	0.17	0.75	1.40	0.25	0.50	1.00	0.73	5	2	—
	伝染性紅斑	0	0.06	0				0	0	0	0	0	0	0.12	2	1	—	
	突発性発しん	0.25	0.34	0.41				0.57	0.17	0.25	0.40	0.50	0.75	0	0.43	—	—	—
	百日咳	0	0.06	0				0	0	0	0	0	0	0.01	1	0	—	
	ヘルパンギーナ	0.06	0.09	0.09				0.14	0	0	0.40	0	0	0	0.14	6	2	—
	流行性耳下腺炎	0.97	1.00	0.91		○	○	2.43	0.33	0.50	0.80	0.25	0.25	1.00	0.96	6	2	3
眼科 (定点数:8)	急性出血性結膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	—	1	0.1	—	
	流行性角結膜炎	0.25	0.13	0.13				0	0	0	0	0	1.00	0.71	8	4	—	
	細菌性髄膜炎	0	0.14	0				0	0	0	0	0	0	0.01	—	—	—	
	無菌性髄膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.04	—	—	—	
基幹 (定点数:7)	マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0.29				1.00	0	0	1.00	0	0	0	1.32	—	—	—
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.02	—	—	—	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.04	—	—	—	
	インフルエンザ (入院例に限る)	0	0.14	0.86		○	○	0	0	0	1.00	0	2.00	3.00	0.19	—	—	—

ⁱ 定点把握疾患:人口及び医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。

ⁱⁱ 定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の 30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令(「警」)します。また、定点当たり報告数が「注意報基準値」を超えた場合に注意報(「注」)を発令します。

ⁱⁱⁱ 今週の値が過去 5 年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記(定点把握疾患の平均値は過去 5 年間の前週、当該週、後週の合計 15 週の平均を利用)

^{iv} **赤字斜字** :警報開始基準値を超過、**紫字斜字** :注意報基準値を超過

4. 定点把握疾患(五類感染症)の年齢階級別報告数 (滋賀県、今週)

インフルエンザ定点 (53医療機関)	総数	～5ヶ月	3～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
インフルエンザ	60	-	-	-	1	-	3	3	1	-	1	-	2	8	7	6	4	3	3	6	12
大津市保健所	19	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	5	3	4	2	1	1	1	-
草津保健所	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-	-	-	-
甲賀保健所	6	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-
東近江保健所	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
彦根保健所	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-
長浜保健所	7	-	-	-	-	-	3	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高島保健所	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	1	3	11

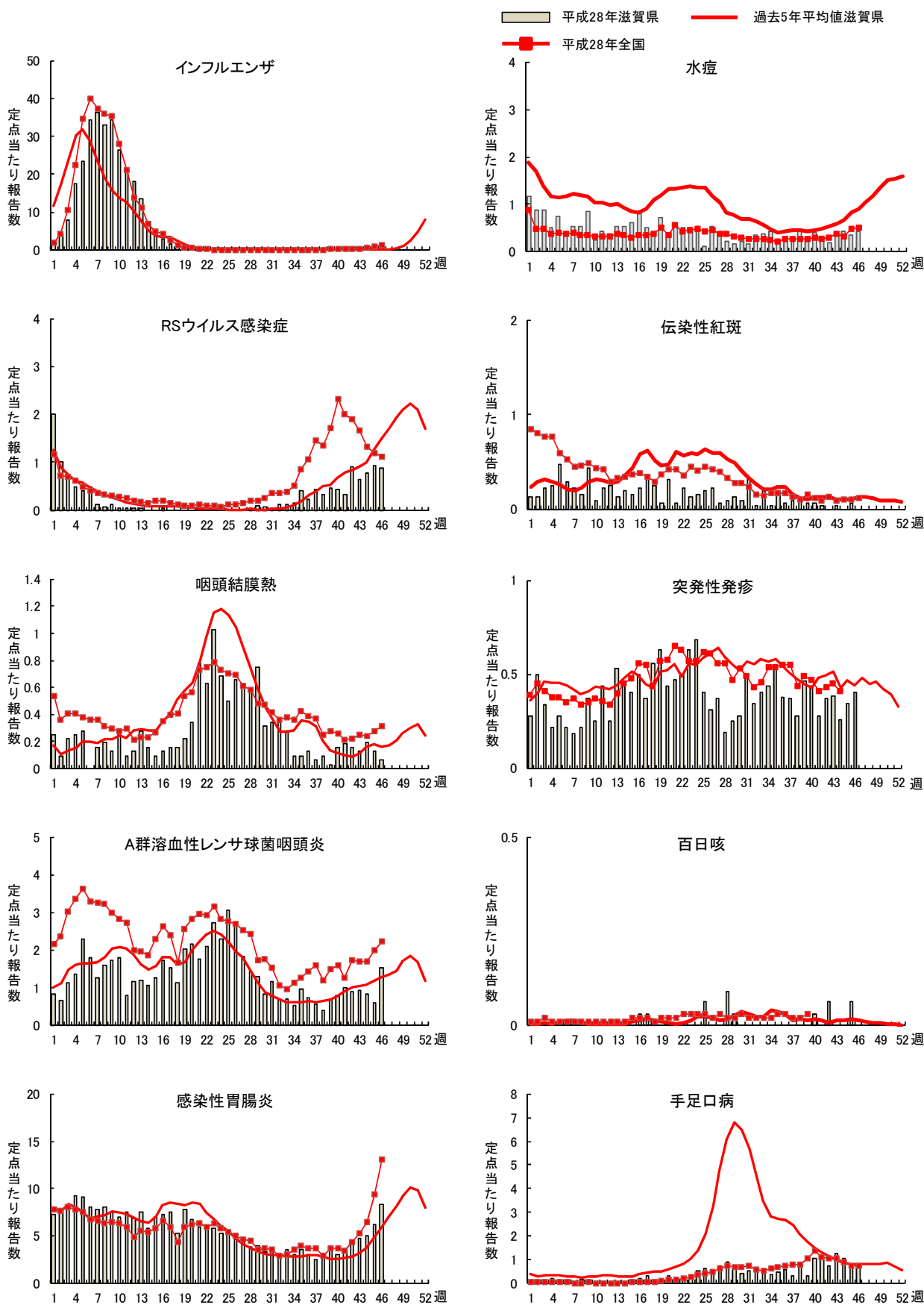
小児科定点 (32医療機関)	総数	0～5ヶ月	3～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	28	5	10	11	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱 (プール熱)	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	49	-	-	1	5	3	7	5	6	6	4	-	8	1	3
感染性胃腸炎	265	1	14	30	31	33	34	24	22	17	10	8	13	2	26
水痘	14	-	1	2	1	-	5	-	2	2	-	-	1	-	-
手足口病	25	-	2	5	3	4	4	5	-	-	1	-	-	-	1
伝染性紅斑 (リンゴ病)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	13	2	7	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	29	-	-	-	-	2	4	7	6	2	2	1	3	-	2

眼科定点 (8医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

基幹定点 (7医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

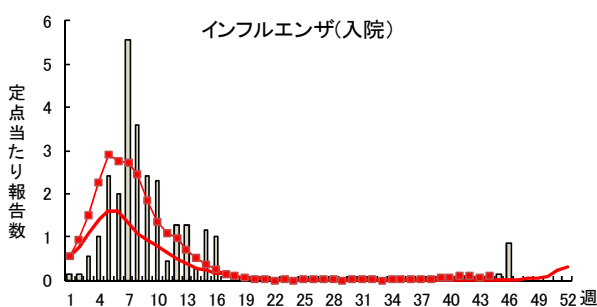
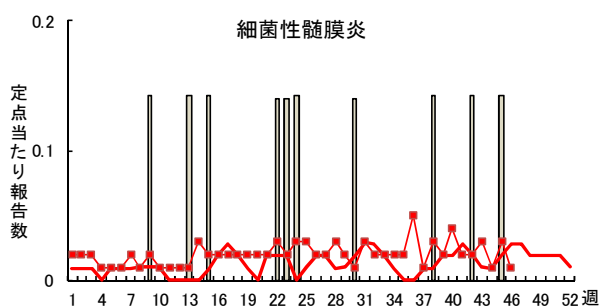
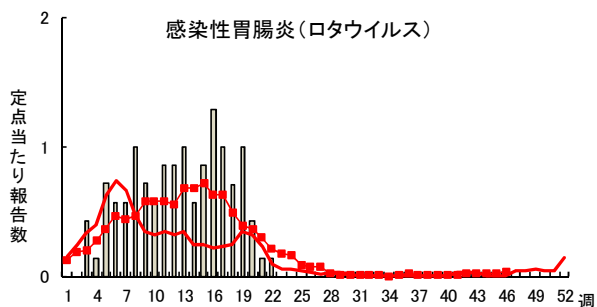
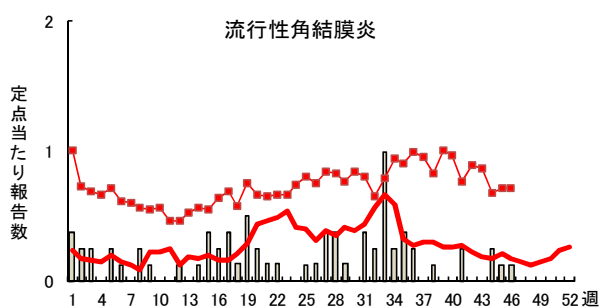
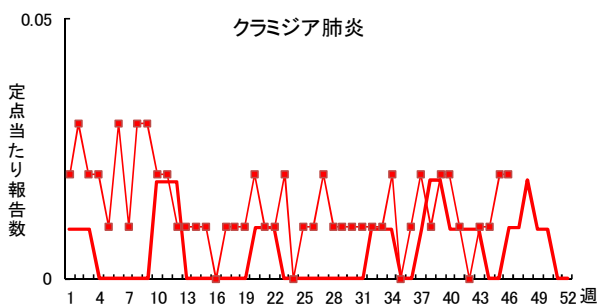
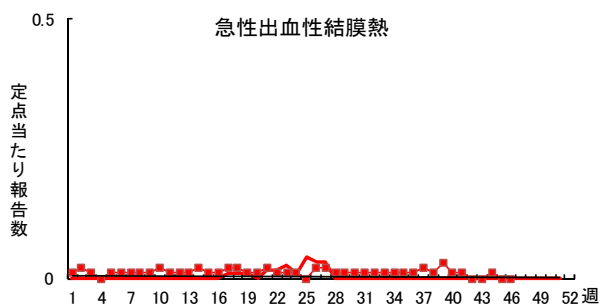
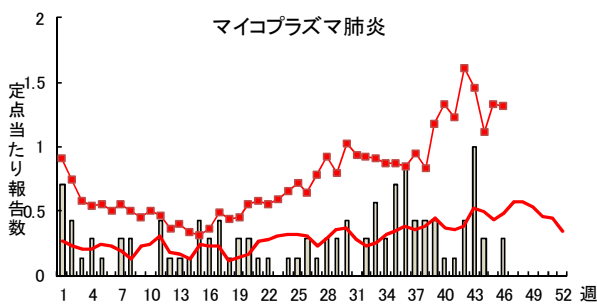
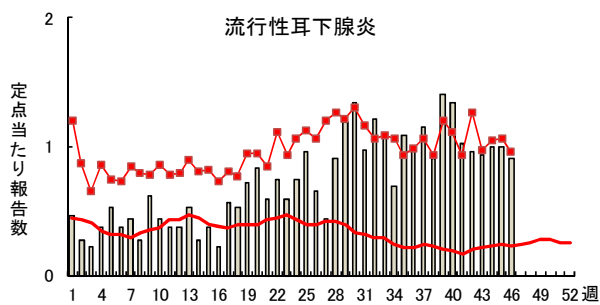
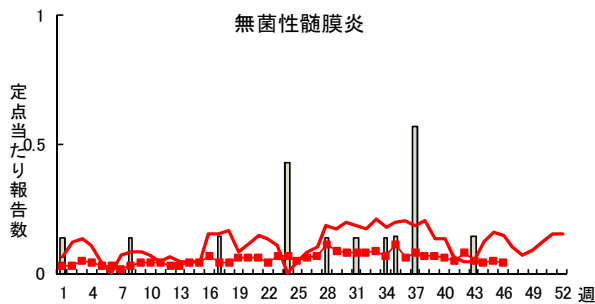
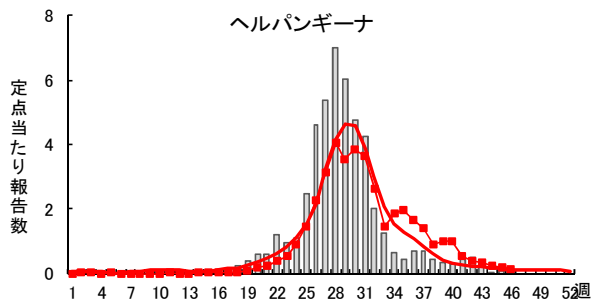
「-」: 報告なし

5-1. 定点把握疾患(五類感染症)の発生動向



5-2. 定点把握疾患(五類感染症)の発生動向

平成28年滋賀県
 過去5年平均値滋賀県
 平成28年全国



6. 全数把握疾患 詳細情報(今週報告例) [▽]

類型	疾患	診断週	保健所	年齢	性別	病型等	推定感染地	予防接種歴	病原体等
二類	結核	46	大津市	60歳代	男	肺結核	国内	-	-
	結核	46	草津	70歳代	男	結核性胸膜炎	県内	-	-
	結核	46	草津	80歳代	男	肺結核	県内	-	-
	結核	46	甲賀	50歳代	男	肺結核	国外	-	-
	結核	46	東近江	80歳代	女	肺結核	県内	-	-
	結核	46	高島	60歳代	女	肺結核	国内	-	-
五類	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	46	草津	80歳代	女	-	県内	-	<i>K. oxytoca</i>
	後天性免疫不全症候群	46	大津市	20歳代	男	無症候キャリア	国内	-	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	46	大津市	80歳代	男	-	県内	1回接種	-
	梅毒	46	大津市	20歳代	女	無症状病原体保有者	県内	-	-
	梅毒	46	大津市	50歳代	男	早期顕性梅毒Ⅱ期	国内	-	-
	梅毒	45	長浜	40歳代	男	無症状病原体保有者	県内	-	-
	梅毒	46	長浜	30歳代	男	早期顕性梅毒Ⅰ期	国内	-	-

注目すべき感染症

■インフルエンザ

- (1) インフルエンザが流行期に入りました(滋賀県健康医療福祉部薬務感染症対策課)
～予防対策の徹底とワクチン接種を～

<http://www.pref.shiga.lg.jp/hodo/e-shinbun/eh00/20161124.html>

- (2) 平成 28 年度 今冬のインフルエンザ総合対策について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

- (3) 特集 インフルエンザ 2015/16 シーズン(国立感染症研究所 病原体検出情報)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-vol37/6901-idx441.html>

■感染性胃腸炎

- (1) 感染性胃腸炎(特にノロウイルス)について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/norovirus/>

■流行性耳下腺炎(ムンプス、おたふくかぜ)

- (1) 感染症週報 第 44 週(国立感染症研究所)

<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2016/idwr2016-44.pdf>

■世界エイズデーの啓発等の実施について(滋賀県健康医療福祉部薬務感染症対策課)

<http://www.pref.shiga.lg.jp/hodo/e-shinbun/eh00/20161121.html>

[▽] 感染症発生動向調査事業において、一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症が、診断した医師から最寄りの保健所へ届出されています。

7. 全数把握疾患の累積患者報告数 保健所別(平成 28 年) ^{vi,vii}

疾患	滋賀県			保健所別累積報告数							全国		昨年累積報告数	
	例年より多い	例年より非常に多い	累積報告数	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国		
二類 結核			219	52	54	18	49	21	12	13	21282	220	24526	
			15.47	15.23	16.11	12.46	21.31	13.47	7.57	26.07	16.77	15.54	19.30	
三類 細菌性赤痢			0	0	0	0	0	0	0	0	112	1	156	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0.09	0.07	0.12	
腸管出血性大腸菌感染症	○		52	8	7	1	3	5	10	18	3450	43	3567	
			3.67	2.34	2.09	0.69	1.30	3.21	6.31	36.10	2.72	3.04	2.81	
四類 E型肝炎			0	0	0	0	0	0	0	0	324	2	212	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0.26	0.14	0.17	
A型肝炎	○	○	7	0	0	0	7	0	0	0	254	4	244	
			0.49	0	0	0	3.04	0	0	0	0.20	0.28	0.19	
オウム病	○	○	1	1	0	0	0	0	0	0	5	0	5	
			0.07	0.29	0	0	0	0	0	0	0.00	0	0.00	
ジカウイルス感染症			0	0	0	0	0	0	0	0	9	-	-	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0.01	-	-	
つつが虫病	○	○	1	1	0	0	0	0	0	0	237	0	419	
			0.07	0.29	0	0	0	0	0	0	0.19	0	0.33	
デング熱	○	○	3	1	0	0	2	0	0	0	317	1	293	
			0.21	0.29	0	0	0.87	0	0	0	0.25	0.07	0.23	
レジオネラ症	○	○	24	11	2	1	5	1	2	2	1441	29	1592	
			1.70	3.22	0.60	0.69	2.17	0.64	1.26	4.01	1.14	2.05	1.25	
五類 アメーバ赤痢			7	3	0	0	2	1	1	0	998	8	1108	
			0.49	0.88	0	0	0.87	0.64	0.63	0	0.79	0.56	0.87	
ウイルス性肝炎	○	○	4	2	1	0	0	0	0	1	251	2	254	
			0.28	0.59	0.30	0	0	0	0	2.01	0.20	0.14	0.20	
カルバペネム耐性腸内細菌感染症	○		7	2	1	0	4	0	0	0	1365	13	1680	
			0.49	0.59	0.30	0	1.74	0	0	0	1.08	0.92	1.32	
急性脳炎	○		3	1	0	0	1	0	1	0	678	3	511	
			0.21	0.29	0	0	0.43	0	0.63	0	0.53	0.21	0.40	
クロイツフェルト・ヤコブ病			1	0	1	0	0	0	0	0	156	3	191	
			0.07	0	0.30	0	0	0	0	0	0.12	0.21	0.15	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症			5	1	0	0	3	1	0	0	442	16	434	
			0.35	0.29	0	0	1.30	0.64	0	0	0.35	1.13	0.34	
後天性免疫不全症候群	○		8	5	1	0	1	1	0	0	1269	10	1431	
			0.57	1.46	0.30	0	0.43	0.64	0	0	1.00	0.71	1.13	
ジアルジア症	○	○	3	2	0	0	0	0	1	0	61	0	80	
			0.21	0.59	0	0	0	0	0.63	0	0.05	0	0.06	
侵襲性インフルエンザ菌感染症	○		3	1	1	0	0	0	1	0	266	3	252	
			0.21	0.29	0.30	0	0	0	0.63	0	0.21	0.21	0.20	
侵襲性髄膜炎菌感染症			0	0	0	0	0	0	0	0	40	2	34	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0.03	0.14	0.03	
侵襲性肺炎球菌感染症	○	○	30	13	4	1	9	1	2	0	2261	34	2402	
			2.12	3.81	1.19	0.69	3.91	0.64	1.26	0	1.78	2.40	1.89	
水痘(入院例)	○		1	0	0	0	0	0	1	0	266	2	314	
			0.07	0	0	0	0	0	0.63	0	0.21	0.14	0.25	
梅毒	○	○	20	7	1	0	2	4	6	0	3989	14	2697	
			1.41	2.05	0.30	0	0.87	2.56	3.78	0	3.14	0.99	2.12	
播種性クリプトコックス症	○	○	2	1	0	0	1	0	0	0	116	2	119	
			0.14	0.29	0	0	0.43	0	0	0	0.09	0.14	0.09	
破傷風	○	○	3	2	0	0	1	0	0	0	116	3	120	
			0.21	0.59	0	0	0.43	0	0	0	0.09	0.21	0.09	
風しん			0	0	0	0	0	0	0	0	121	4	163	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0.10	0.28	0.13	
麻しん			1	0	1	0	0	0	0	0	153	0	35	
			0.07	0	0.30	0	0	0	0	0	0.12	0	0.03	

vi 今年第 1 週以降に診断された感染症の累計報告数を全国、滋賀県および保健所別に示しています。上段に今年の「累積報告数」、下段に「人口 10 万人当たりの累積報告数」を記しています。

vii 今年と過去 5 年の同時期の累積報告数の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、または「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記

【参考】今週の学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)概況(滋賀県、今週)

滋賀県では、園および学校等により、感染症による欠席者等の情報を学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)へ毎日入力いただいています。入力いただいたデータを、本感染症週報と同期間について、集計して掲載しています。

コメント

- (1) インフルエンザは先週(45週;20例)と比べて、大きく登録数(46週;60例)が増加しています。
- (2) 発生動向委調査で報告が少なかった「マイコプラズマ肺炎」は、学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)では多く登録されています。

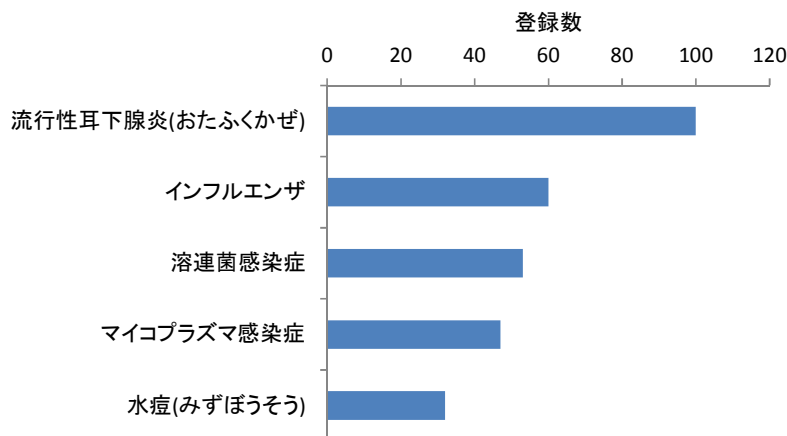


図. 学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)において登録数の多い5疾患

【全国情報】 国立感染症研究所 感染症疫学センターHPに掲載されています。

感染症発生動向調査 週報(IDWR)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報(IASR)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>

インフルエンザ様疾患発生報告(学校欠席者数)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>

【届出対象疾患】 厚生労働省 HP に掲載されています。

感染症法に基づく医師の届出のお願い

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/kkekaku-kansenshou11/01.html

滋賀県感染症発生動向調査週報は、感染症法に基づいて県内の医師、定点医療機関および県内各保健所より報告されたデータを用いて、滋賀県衛生科学センター健康科学情報係において作成しています。

本情報は滋賀県感染症情報センターホームページに掲載しております。

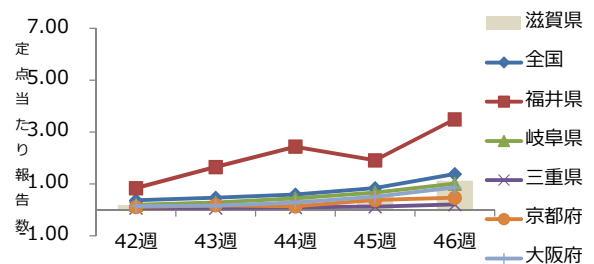
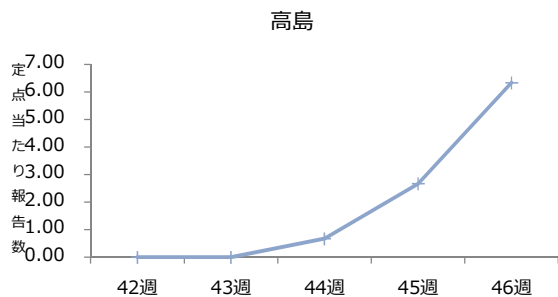
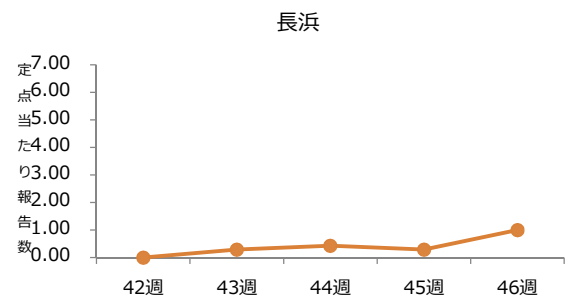
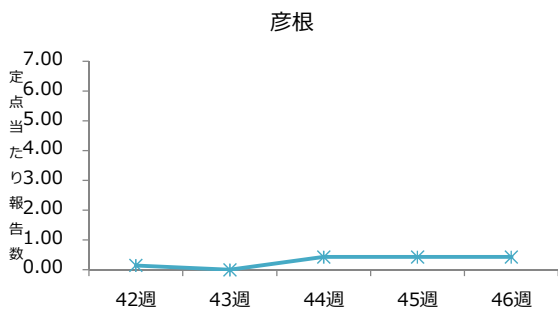
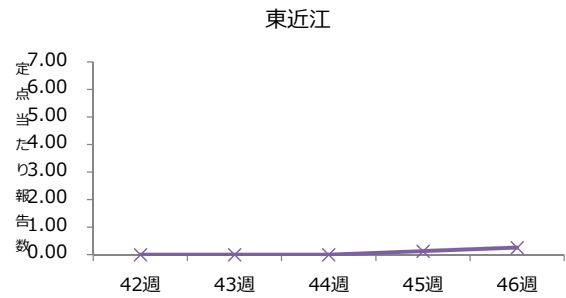
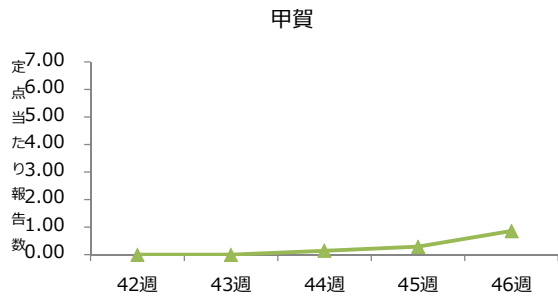
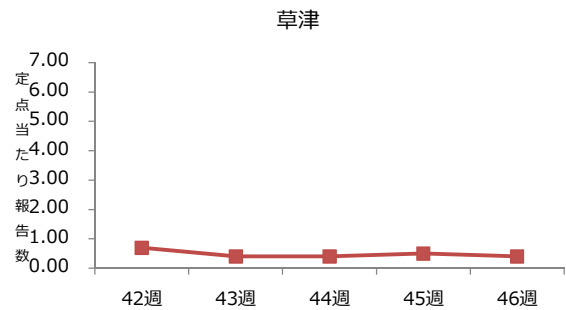
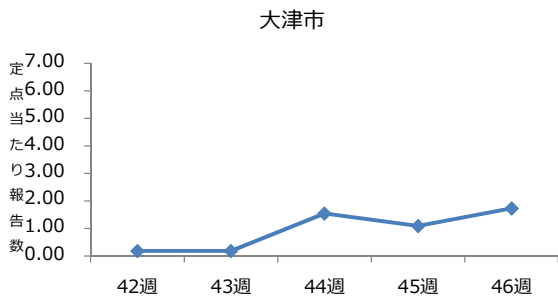
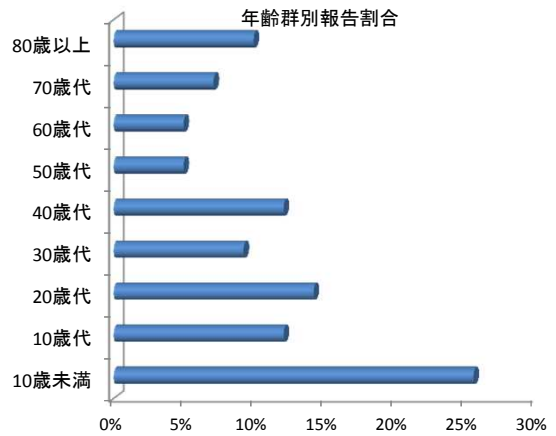
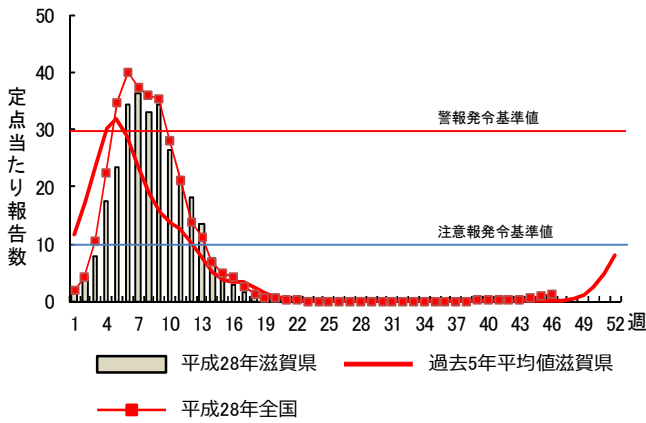
滋賀県感染症情報センターHP

<http://www.pref.shiga.lg.jp/e/ef45/kansen-c/index.html>



イラストは滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」

インフルエンザの発生動向 平成28年46週 滋賀県



梅毒の発生動向 平成28年第1-46週

- 国内の梅毒の報告数は、感染症法が施行された平成11年以降で最も多かった平成27年を大きく超越
- 滋賀県では
 - 平成28年第46週までの報告数（20例）は、感染症法が施行された平成11年以降で最も多かった平成27年（14例）を大きく超越
 - 平成24年以降は、男女ともに報告数が継続的に増加（図1）
 - 平成28年は、男性は30-60歳代、女性は30歳代に多い（図2）
 - 男女ともに推定感染経路における異性間性的接触が多い（図3）
 - 少なくとも平成18年以降に先天性梅毒の報告はない

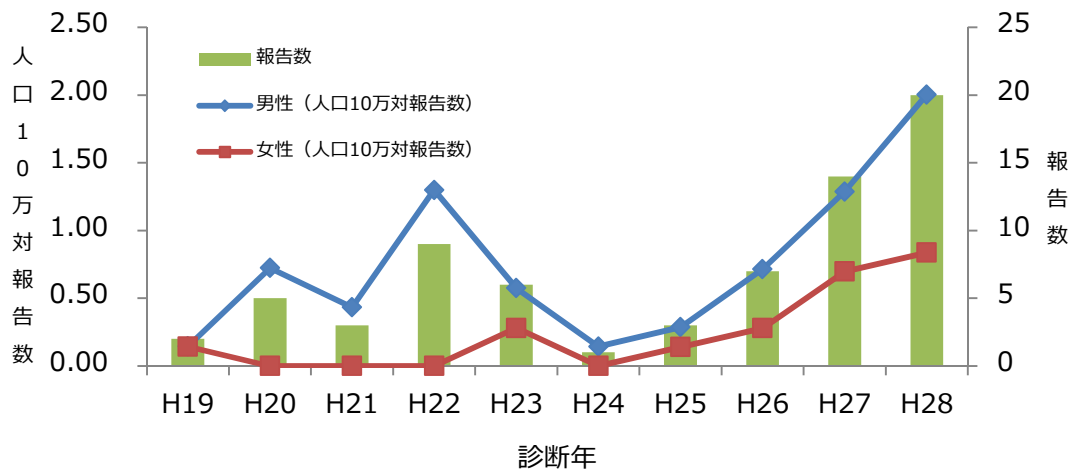


図1. 梅毒の発生動向（滋賀県、平成19年第1週 - 平成28年第46週）

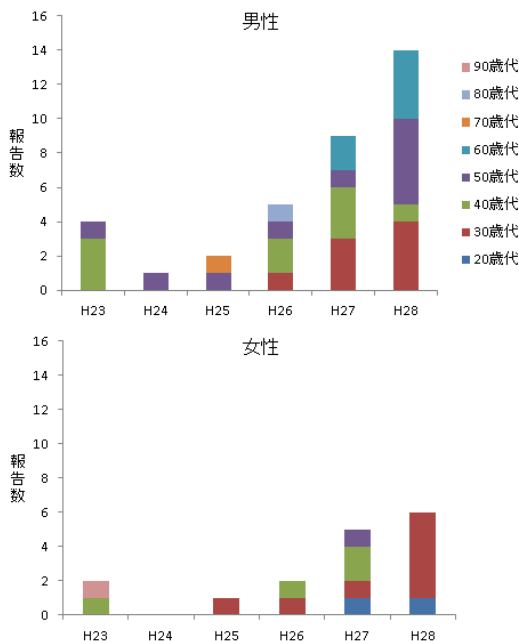


図2. 梅毒の年齢群別報告数（滋賀県、平成23年第1週 - 平成28年46週）

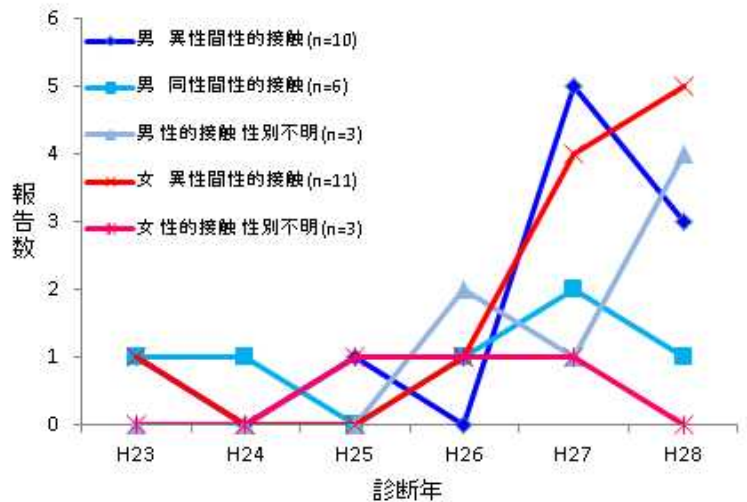


図3. 梅毒の感染経路別報告数（性的接触のみ集計）（滋賀県、平成23年第1週 - 平成28年46週）